

# Hem21 NEWS

公益財団法人  
ひょうご震災記念21世紀研究機構  
ニュース

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である  
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

VOL. **33** 平成24年  
(2012) 5月

## CONTENTS

- 1 兵庫県音楽療法士認定証  
交付式・記念講演会
- 2~3 平成23年度研究成果につ  
いて
- 4 平成24年度事業計画・研  
究テーマ
- 5 理事長就任の挨拶
- 6~8 人と防災未来センター  
MIRAI

管理部

研究調査本部

人と防災未来センター

こころのケアセンター

学術交流センター

3月28日午後、「平成23年度兵庫県音楽療法士認定証交付式・記念講演会」が、兵庫県こころのケアセンターで開催されました。

新規認定者20人に兵庫県から認定証が交付されるとともに、上野学園大学客員教授で、日本音楽心理学音楽療法懇話会会長の貫行子氏の記念講演会、新規認定者の実践活動発表が行われ、音楽療法を実践中の病院や学校、高齢者・障害者福祉施設等の職員、音楽療法士、音楽療法団体関係者・研究者など約200人が参加しました。



井戸知事から認定証を交付される平成23年度認定者代表

式典では、まず井戸敏三兵庫県知事から新規認定者に「兵庫県音楽療法士認定証」が交付されました。井戸知事は、東日本大震災の復興への取り組みに触れられ、被災地での兵庫県音楽療法士の活動について話されるとともに、『音の力楽しみながら療法に 生かす担い手 春に巣立たん』という歌を詠まれ、新規認定者の音楽療法士としての門出を祝われ、激励の言葉を贈られました。また、長岡壯壽県議会副議長からも、ご子息の担任の先生が、この日、音楽療法士に認定されたことに触れられ、「高齢者の豊かな日常生活や障害のある方のために活躍されることを願うとともに、兵庫県議会としても取り組みを進めていく」と祝辞を述べられました。

平成  
23年度

## 兵庫県音楽療法士認定証交付式・ 記念講演会「高齢者の幸せと音楽療法」を開催

続いて、兵庫県音楽療法士認定審査会を代表し、司馬良一委員長は「申請者22人の厳正な審査を行い、技術・適性の観点から20人を合格と判定した。今後は対象者の方の尊厳を守り、倫理性をわきまえて、実践を継続してもらいたい」との審査講評を行いました。

また、「高齢者の幸せと音楽療法」と題した記念講演会における貫行子氏の豊富なセッション経験に基づく貴重なお話は、新規認定者はもとより、参加者にとって大変意義深いものとなりました。

貫氏は、DVDや写真を用いて、対象者の方が歌を歌ったり楽器を鳴らしたりすることにより、楽しそうな表情を見せられるセッションの様子を紹介されました。また、「高齢者の音楽療法には3つの意義があり、1つ目は健康維持、2つ目は治療、3つ目は人生のターミナルケアである。そして、音楽療法の究極の目標は一人ずつの幸せを追求することである」と、参加者に語られました。



講師の貫行子氏が音楽療法を会場で実践

### 兵庫県音楽療法士

音楽療法とは、「音楽のもつ生理的、心理的、社会的働きを用いて、心身の障害の軽減回復、機能の維持改善、生活の質の向上、行動の変容などに向けて、音楽を意図的、計画的に使用すること」を言います。

兵庫県では平成11年度に音楽療法士養成事業を開始し、13年度から県独自の「兵庫県音楽療法士」の認定を行っており、24年3月までに279人を認定。養成講座は、当機構こころのケアセンターが実施しています。

# 平成23年度研究成果について

## 重点研究課題

### 〔1〕『地域の安全安心・国際社会への貢献』



コーディネーター：林 敏彦 研究調査本部研究統括  
専門分野：経済政策

#### 〔多国間経済協力が兵庫経済に及ぼす影響と対策〕

(担当：吉岡潤治 研究調査課課長補佐)

TPP等の多国間経済協力のあり方について、受け入れの賛否をはじめ、多くの議論が行われている。このため、仮に受け入れた場合を想定し、農林水産業や製造業など、兵庫県経済への影響が大きいと思われる産業に絞って検証し、県としての中長期的な対応策を検討した。



#### 〔防災における政策のジレンマの研究〕

(担当：安藤文暁 特別研究員)

阪神・淡路大震災、東日本大震災のいずれも、事前に発生の可能性を示唆する研究成果が出されていたが、行政は本格的な防災対策に踏み切れず、「想定外」という言葉が多く聞かれた。

このため、それぞれの震災前の「想定」に携わった行政担当者や研究者にヒアリングするとともに、市民に対してもアンケートによる意識調査を行い、次の災害に向けて見直すべき点を検討した。



#### 〔グローバル化におけるひょうご経済のあり方〕

(担当：桜井靖久 非常勤主任研究員)

大企業から中小企業までが海外展開する中、そのことが、兵庫県経済に対してどのように影響するかを分析し、県としての政策のあり方を検討するとともに、とりわけグローバル化による産業空洞化が引き起こす雇用問題に焦点を当て、安全・安心社会の観点から、雇用政策について検討した。



#### 〔東アジアの災害対策協力のあり方〕

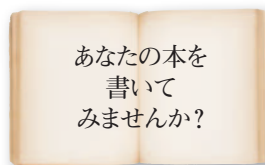
(担当：穂原雅人 非常勤主任研究員)

大災害のような異常な事態には、平時の常識を超えた異例な対応が必要という考え方の道筋をたどり、20世紀以降の複合・巨大災害について、①米軍をはじめとする諸外国からの災害救援支援、②地方自治体レベルでの復旧・復興支援、③シンクタンクレベルでの災害復興の役割等の事例を通して、今後起こり得る東アジアの大規模災害に対し、日本がどのように貢献できるかを検討するとともに、兵庫県やHAT神戸に集積する研究機関の知見をいかに災害に強い地域づくりにつなげるかを検討した。



言葉を伝える

私に伝えた  
誰かのように



あなたの本を  
書いて  
みませんか？

小説、自伝、詩集などあなたがお書きになった原稿をご予算に応じた自費出版プランでご提案いたします。また、各企業の記念誌等の企画・プロデュースもいたしております。どうぞお気軽にご相談ください。

ISO14001  
当社の印刷センターは  
ISO14001の認証を  
取得しています。  
新聞印刷及び各種商業印刷



株式会社 神戸新聞総合印刷 印刷物の企画プロデュースから編集・印刷まで、ニーズに合わせてトータルに手がけます。  
〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-5-7 ☎078-362-7180  
http://www.kobepn-printing.co.jp/

企画・デザイン・編集・制作・新聞印刷・商業印刷  
出版印刷・新聞広告・雑誌広告・SP・イベント・IT事業

## 重点研究課題 (2)『長寿国につぽん活性化』

コーディネーター：野々山久也 研究調査本部研究統括  
専門分野：家族社会学



### 「結婚・出産・子育て支援のための家族福祉政策」

(担当：永田夏来 非常勤主任研究員)

従来、実施されている若者の就労支援、女性の社会参加の促進策、結婚相談事業などを検証するとともに、最近の若者論をベースにした家族のあり方や住まい方、コミュニティの新しい姿に着目し、家族形成を困難にしている根本原因を明らかにし、結婚や出産、子育てなどの家族形成および家族実現の活性化につながる「産育支援」の仕組みを検討した。



### 「参画と協働による社会形成の進展と今後の展開方策」

(担当：西田慎太郎 研究調査課長)

参画と協働に至る兵庫県政の取り組みの流れを検証して意義を明らかにするとともに、ヒアリングを通して、参画と協働の担い手や支援機関がさまざまな活動を展開する中で実感している課題を整理し、「公・私」二分論から「公・共・私」三分論に立脚した新しい「共」の創造に向けた今後のあるべき展開方策を検討した。



### 「社会的安心確保のための財源と制度のあり方」

(担当：武内智彦 非常勤主任研究員)

非正規雇用の増大に現状の社会保障制度は十分に対応しておらず、現状の仕組みでは低年金者・無年金者が生まれ続け、長期的な課題として定着するのではないかと懸念されている。

このため、歴史的に構築されてきた社会保障制度の基本構造を再検討し、参画と協働を基本にした新たな社会保障に向けての方策を検討した。



### 「兵庫県における人材の国際移動と多文化共生の今後の展開」

(担当：羽瀧貴司 非常勤主任研究員)

グローバル化が進展する中、人材の国際移動の実態を兵庫県の地域レベルで解明し、流入する外国人材の多文化共生の展開について、地方自治体レベルの施策を検証するとともに、新興国から兵庫県への進出企業の事例を通して、兵庫県における今後の企業誘致策について検討した。



### 「兵庫県幹部との意見交換会」

開催日時：3月21日(水)13時～17時

開催場所：県庁視聴覚ルーム

参加対象：▶出席者

研究課題の関係部局の課長、担当職員等

▶発表者

各研究員(報告書作成者)

※研究統括がサポート



当機構では、「地域の安全安心・国際社会への貢献」および「長寿国につぽん活性化」を重点研究課題として、政策立案につながる研究を行っており、平成23年度の研究成果について、兵庫県庁関係者に対する研究員からの発表および意見交換を通して、県施策への反映を図るため、「兵庫県幹部との意見交換会」を開催しました。

当日は、本庁関係課長など多くの関係者が参加し、研究者からの説明に熱心に耳を傾けていました。(研究報告書は、ひょうご震災記念21世紀研究機構のホームページに全文を掲載しています。<http://www.hemri21.jp/kenkyusyo/seika/index.asp>)

# 平成24年度事業計画

## 1 基本方針

第2期中期目標・中期計画(平成22～25年度)の達成を目指し、これまで実施した業績評価の結果等を踏まえ、「選択と集中」を進めながら、さまざまな地域課題や政策課題について幅広い視点から研究調査や事業に取り組みます。また、被災地兵庫の責務として、災害被害の軽減への貢献など、震災の経験と教訓の発信機能の向上を図るとともに、HAT神戸に集積したさまざまな機関等との連携を密にし、研究や各種事業の成果の発信、知的交流、人材育成などを推進します。

## 2 主な取り組み

### (1) 自主調査研究事業

「安全安心なまちづくり」と「共生社会の実現」という基本課題を研究テーマの視点として持ちつつ、阪神・淡路、東日本大震災から得た教訓を生かした災害時対応のあり方や安全安心を基本的価値とする社会の仕組みづくりを明らかにし、「長寿国につぼん活性化」を目指して被災地兵庫から全国に向けて発信する日本型福祉社会構築の制度設計を提案するとともに、国際平和の構築への貢献等の喫緊の課題に実践的な政策研究を推進し、21世紀の成熟社会を先導する政策提言に取り組みます。

### (2) 学術交流事業

シンポジウム、フォーラム、セミナー等の開催や情報紙等の発行、ITの活用などにより、機構の活動や研究成果を情報提供します。さらに、兵庫にゆかりのある多彩な知的資源の蓄積を活用した講座等を開催するとともに、留学生や研究者交流などを通じて兵庫とアジア・太平洋の大学間の学術交流システムを構築することにより、知的交流基盤の充実を図ります。

### (3) 人と防災未来センターの運営

阪神・淡路大震災の経験を語り継ぎ、そこから学んだ教訓を未来に生かすことを通じて、防災に関する知識および技術の普及、防災政策の形成支援を行い、地震等による被害の軽減を図るため、分りやすく伝える展示事業、実践的な防災研究、災害対策専門研修の充実などに取り組みます。

### (4) こころのケアセンターの運営

トラウマ・PTSDなど「こころのケア」に関する研究や研修、相談、診療などを実施するとともに、いのちの尊厳と生きる喜びを高める「ヒューマンケア」の理念に基づく人材育成を行います。

# 平成24年度の研究テーマ

ひょうご震災記念21世紀研究機構では、研究調査本部と人と防災未来センター、こころのケアセンターの各研究部で研究調査活動を行っており、平成24年度は次の内容の研究に取り組みます。

## 1 研究調査本部

- ・災害時の広域連携支援の役割の考察
- ・大震災復興過程の比較研究
- ・ローカルガバナンスが創る共生社会
- ・国際防災協力体制構築の検討
- ・中小企業における海外事業展開の動向と課題
- ・高齢者就業・社会参画の拡大
- ・県民参画型の地域エネルギーシステムの構築

## 2 人と防災未来センター

### (重点研究領域)

- ・災害初動時における人的・社会的対応の最適化
- ・広域災害に向けた組織間連携方策の高度化
- ・地域社会の復旧・復興戦略の構築

## 3 こころのケアセンター

- ・大規模災害発生時のこころのケア活動従事者の養成研修会の実施およびプログラム作成に関する実践的研究
- ・自殺未遂者援助における連携の重要性と課題
- ・職場いじめ予防・対策のための心理社会的介入法の開発とその効果の予備的検討
- ・警察職員の業務に関するストレスとその健康への影響
- ・風水害が被災者の心身の健康に及ぼす影響に関する研究
- ・遺族における心身の健康状態の評価と介入に関する研究
- ・医療現場におけるDV被害の早期発見のための包括的研究
- ・消防職員の業務に関するストレスとその健康への影響：前方視的研究

## 理事長就任の挨拶

このたび、貝原前理事長の後を受け、(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構の理事長に就任いたしました五百旗頭真です。

当研究機構は、阪神・淡路大震災の復興過程総括検証を踏まえ、防災・減災の社会づくりに資するとともに、21世紀文明のあり方について研究し、国内外の政策形成に情報発信することを目的として設立されたものであり、これまで創造的復興や新たな地域づくりに先導的な役割を果たしてきました。

昨年3月に発生した東日本大震災では、震災1カ月後の4月11日に、当研究機構は復興へ向けた提言を取りまとめ、与党等政党関係者、中央省庁関係者へ伝えるとともに、災害、防災対策、危機管理などを学ぶ総合テキストとしての「災害対策全書」を発刊し、直ちに被災自治体へ贈呈するなど、一日も早い復興に寄与できるよう、全力を注いでまいりました。

今後は、貝原前理事長が築かれた礎の下、阪神・淡路大震災以来、この地が蓄積してきた減災のためのノウハウはもとより、防衛大学校長、復興構想会議議長、復興庁復興推進委員会委員長としての経験などを生かし、次なる大災害に備えつつ、「安全安心なまちづくり」と「共生社会の実現」に資する活動を、機構をあげてめざしたいと思います。

そのための質の高い政策提言を行うほか、震災の経験と教訓の発信やさまざまな研究機関との知的交流・人材育成などの諸事業のさらなる充実に努めてまいりたいと思っております。引き続き皆さまのご協力、ご厚情を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

### 五百旗頭 真

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長  
復興庁復興推進委員会委員長  
公立大学法人熊本県立大学理事長  
神戸大学名誉教授



## HAT神戸 掲示板

### 兵庫県立美術館

#### 「カミーユ・ピサロと印象派—永遠の近代」

フランス印象派の代表的な画家の一人、カミーユ・ピサロ。田園風景や農作業をする人々、パリの都会の様子など、柔らかな筆触で光を表現した穏やかな作風で世界中の人々に親しまれており、作品から19世紀という激動の時代における都市と田園の対比や変貌する自然観などを見てとることができます。



カミーユ・ピサロ  
《エラニーの菜園と鐘楼》1899年  
福島県立美術館蔵

本展では、ピサロと親交があった印象派の画家、モネ、ルノワール、セザンヌなどの作品も展示し、ピサロの生涯の画業とその時代の美術表現を紹介いたします。

■会期=6月6日(水)~8月19日(日)

■観覧料=一般1,300(1,100)円、大学生900(700)円、高校生・65歳以上650(550)円、中学生以下無料

※( )は前売りおよび20人以上の団体割引料金(高校生・65歳以上は前売りなし)

※割引を受けられる方は、証明できるものをお持ちの上、会期中に同館窓口で入場券を購入してください

※コレクション展の観覧には別途観覧料が必要ですが(本展と併せて観覧される場合は割引あり)

※前売り券は6月5日(火)まで販売(会期中を除く)

◎休館日=月曜(7月16日は開館し、17日に休館)

◎開館時間=10時~18時(金曜・土曜は20時まで)

※入場は閉館の30分前まで

TEL 078-262-0901 <http://www.artm.pref.hyogo.jp/>

### 日本赤十字社

#### 赤十字の活動資金にご協力をお願いします

日本赤十字社の活動は、災害による救護活動をはじめ、看護師養成、青少年ボランティアの育成、救急法等の講習などさまざまです。

皆さまの地域でも「街角の赤十字」として県内の交番や派出所に救急箱を、また、心拍停止例の救命率向上のため、県内の警察施設へAEDの設置を行っています。

赤十字は皆さまの身近で、「いのちと健康」を守る活動をしています。そして、これらの活動は、皆さまから寄せいただく活動資金により支えられています。

◎活動資金に関するお問合せ

日本赤十字社兵庫県支部 振興課

お電話から TEL 078-241-8921

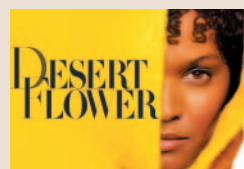
パソコンから



### JICA関西

#### ◆見ることから始める国際協力! JICA関西映画鑑賞会「デザートフラワー」

アフリカのソマリア出身のスーパーモデル、ワリス・ディリー。貧しい少女時代やFGM(女性性器切除)を乗り越え、トップモデルへと転身を遂げた自らの生い立ちを映画化した衝撃と感動のドラマを上映します。奮ってご参加ください。



(C)Desert Flower Filmproductions GmbH

■日時=6月23日(土)13時30分から16時まで

■会場=JICA関西

■参加費=無料 ※事前申込み必要

◆国際協力連続セミナー in JICA関西(全7回)~共に考えよう!世界のためにできること~ 「ODAはどのように使われているのか?」「自分たちの生活にどう直結するのか?」「民間企業の国際協力への取り組みはどうか?」などについて様々な分野で活躍する講師がお話します。(それぞれのテーマに沿って全7回実施)この機会にお気軽にご参加ください!

■日時=6月25日(月)、7月9日(月)、7月23日(月)18時30分から20時まで

■会場=JICA関西

■参加費=無料 ※事前申込み必要

#### ▶お申込み方法

お名前・所属・連絡先(電話番号/FAX番号/メールアドレス)を明記の上、メールまたはFAXでお申込みください。但し、メールでお申込みの場合、件名を「JICA関西映画鑑賞会(デザートフラワー)」または「国際協力連続セミナー(希望日)」としてください。

#### ◆あ!それが知りたかったん! JICAプラザ関西(広報展示室)「I ♥ AFRICA」

人類発祥の地であるアフリカの歴史や人々の暮らしを紹介します。また、見て、触って、感じながら開発途上国の文化を楽しく学べるコーナーもあります。ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。

■日程=6月25日(月)まで

■時間=11時から18時まで(無休/入場無料)

#### ◆食べることから始める国際協力! JICA関西食堂月替りエスニック料理

JICA関西1階の食堂(カフェテリア方式)は、どなたでもご利用できます。完全禁煙で、安心して料理を楽しめ、子供椅子もご用意していますので、お子様連れも歓迎です。大好評の月替りエスニック料理(飲物付¥700)の5月は南アフリカ料理、6月はマダガスカル料理をご用意します!ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。



写真は5月のパラグアイ料理

メニューの詳細と写真については、

こちら→ <http://www.jica.go.jp/kansai/office/restaurant/index.html>

■営業時間=(昼)11時30分から14時まで (夜)17時30分から21時まで

※各終了30分前ラストオーダー

■定休日=無休(但し、年末年始を除く)

#### ◎申し込み・問い合わせ

JICA関西(独立行政法人国際協力機構関西国際センター)

TEL 078-261-0341(代) FAX 078-261-0342

〒651-0073 神戸市中央区臨浜海岸通1-5-2

Eメール [jicaksic-event@jica.go.jp](mailto:jicaksic-event@jica.go.jp) <http://www.jica.go.jp/kansai/>

## 新任研究員紹介

### 研究部長 村田 昌彦



4月1日に、兵庫県防災企画局防災計画課(関西広域連合広域防災局防災課兼務)から、DRI研究部長として着任しました。DRIの勤務は、設立当初の3年間、7年目の1年間に続いての3度目となりますので、読者の中にはお会いしたことがある方がたくさんいらっしゃるかと思います。

阪神・淡路大震災では、実家が全壊して祖母を亡くし、勤務地も震度7の激震に襲われた西宮土木事務所であったため、公私ともに大変な日々を過ごしました。震災後、県庁でインフラ復興に3年間携わった後、HAT神戸において、アジア防災センター(ADRC)、DRI、国際復興支援プラットフォーム(IRP)の立ち上げなどをさせていただき、その間、世界各地の大災害被災地に赴いたり国連等の国際会議に出席し、自分自身の被災体験や兵庫県の震災からの教訓を発信するなど、国内外の防災協力を携ってきました。

前職の防災計画課では、西宮の自宅から県庁近くの災害待機宿舎に単身赴任し、国民保護事案、新型インフルエンザ対策などの危機管理業務、関西広域連合によるカウンターパート方式での東日本大震災の被災地支援、地震や津波の被害想定見直しなどの業務に携わりました。

これまでの幅広い防災・危機管理の経験をベースに、設立10年となるDRIで人材育成や研究調査活動に取り組んでいきますので、よろしくお願いたします。

### 研究員 マリエリザベス

4月1日に、人と防災未来センターの研究員として着任いたしました。国際的な復興の視点で主に災害後の住宅復興の分野を研究しています。

私はアメリカのウィスコンシン州(アメリカの北部、ミシシッピ川の隣)の小さな町で生まれました。大学院はシアトルにあるワシントン大学で建築の勉強をしました。修士論文を書き始めた2005年に、ハリケーンカトリーナがアメリカの南沿岸部を襲いました。初めて自分の国の被災者問題について考えて、修士論文はハリケーンカトリーナ後のニューオーリンズ市の住宅問題と住宅復興について書きました。

2006年に神戸大学に研究生として、阪神・淡路大震災の後の神戸とニューオーリンズ市の復興を比べる目的で留学しました。以来、まちづくりと住まい環境の災害復興に興味を持ち、災害後の住宅復興の国際事例を研究しています。2009年に神戸大学の博士課程に入り、国際復興支援プラットフォーム(IRP)でアシスタントの仕事を始めました。

東日本大震災が起こってから、また復興住宅を中心とする研究の必要性や外国語での情報発信の少なさを強く感じました。現在の復興状況においてもそれは続いており、できるだけ東北の市町村の現場からまちづくりや町と生活の復興情報を英語で発信したいと思っています。

人と防災未来センターはいろいろな専門性を持った研究者が集まっているので、さまざまな研究者、関係者の方々と出会え、私にとっても良い機会です。特に、日本の防災・復興に関する知見を深め、各国に、日本の経験から学んだことを伝えたいと思っています。

どうぞよろしくお願いたします。



### 研究員 高田 洋介



4月1日に、人と防災未来センターの研究員として着任いたしました。この春に大学院(修士)を卒業したばかりで、まだまだ研究者としては半人前ですが、上級研究員の先生方や先輩研究員の皆さまからアドバイスをいただきながら、研さんを積んでまいりたいと思っています。

前職は看護師で、救命救急センターで勤務しておりました。在職中に国際緊急援助隊医療チームのメンバーとして海外で発生した災害救援に派遣される機会を得て、それを機により災害に関わる仕事をしたいという思いで退職し、大学・大学院と進学し、人と防災未来センターの研究員となった次第です。大学に在学中は、病院勤務ではできなかった医療NGOの活動やWHOでのインターン、UNOCHA(国連人道問題調整事務所)が行うUNDAC(国連災害評価調整)の研修を受けるなど、国際緊急援助に関わる知識・技術の研さんを積んでまいりました。

阪神・淡路大震災が発生した当時は長野県に住んでいたため震災の様子はテレビや新聞を通してでしか知ることができませんでした。また、高校生だったので、報道だけでは被害に遭われた方々の生活の大変さや心情を深く理解するには至りませんでした。しかし、神戸で生活する中で、あの震災の爪痕を知り、またそこから復興してきたことを体感することで、少しずつですが、当時のご苦勞を理解することができるようになりました。だから、以前にも増して、阪神・淡路大震災の経験から学んだことをさらに発展させる必要性を感じています。そして今後、発生することが予測されている南海トラフ巨大地震や首都直下型地震などに、より良い備えと対応をしなければならぬと思っています。

私は病院での臨床経験や医療分野での国際救援活動の経験、また国際機関での研修の経験を生かし、そこで得たノウハウを医療の視点から防災や減災、災害への備えに生かしたいと考えております。また、日本で大規模災害が発生した際に海外から日本に入ってくる援助団体に対して自治体もしくは政府がどのように対応すべきなのか、受け入れる側の準備態勢についても研究を進めたいと思います。

人と防災未来センターは研究事業だけではなく、研究の知見に基づいた災害対策専門職員の育成事業など6事業を展開しており、研究員は研修事業などにも携わっております。私は研究者としても専門家としてもまだまだ未熟者ですので、皆さまのご指導を賜りながら一日も早く自分を成長させ、微力ながら防災に携わっていきたくと思っていますので、皆さまどうぞよろしくお願いたします。

## 新任研究員紹介

### 研究員 斉藤 容子

初めまして。4月より人と防災未来センターの新任研究員として勤務を始めました斉藤容子と申します。前職は人と防災未来センター東館にあった国際連合地域開発センター(UNCRD)防災計画ユニットで、アジアのコミュニティー防災能力向上に関する業務を行っていました。例えば、バングラデシュ沿岸部のサイクロン常襲地帯でどうすれば全ての人々が安全に安心して避難することができるかといったことを地域の人々と一緒に考え、避難所の運営マニュアルを作成するといった実践研究を行ってきました。



これまでではアジアの開発途上国を中心とした支援、研究を行ってきましたので、国内の災害に関してはこれから学んでいかねばならない点も多くあると思います。しかし、海外であっても、国内であっても、地域の特性を踏まえ、地域の人々と一緒に考え、実践的な研究をしなければならぬと強く思っています。

その中でもジェンダー視点をコミュニティー防災の中に取り入れること、そして災害時に女性のニーズが見落とされないこと、男女両方の視点が入った復興が行われること等を研究のテーマとしています。東日本大震災においても女性の視点を取り入れることの重要性が教訓として残りました。また現在の復興においても、今後の東海・東南海・南海地震に対しても考えていかねばならない問題の一つだと思います。

これまでの経験や視点を、日本の防災にどのように反映させていけるかといった研究をしていきたいと思っています。また同時に、日本の経験を海外へ伝え、世界の防災文化の向上に微力ながら寄与したいと思っています。新しい職場でまた多くの出会いがあることを楽しみにしています。よろしく願っています。

### 研究調査員 古越 武彦



長野県より派遣され、人と防災未来センターの研究調査員として着任しました古越武彦と申します。

私が防災・減災対策に強い思いを抱ききっかけとなったのは「阪神・淡路大震災」でした。当時、被災地支援を志願し、4日間と短期間でしたが、発災の翌々週に長田区役所で「防災証明」の発行事務に携わりました。その間、区役所周辺の様子を目の当たりにし、地震災害の恐ろしさ、悲惨さに衝撃を受けました。「なぜ、こんなにも大きな災害が起きたのか。被害を出さないようにすることはできなかったのか」と、長野に戻ってからずっと考えるようになりました。

平成21年4月から危機管理部危機管理防災課に配属され、土砂災害をはじめとする自然災害や新型インフルエンザなどへの対応を行ってきました。人と防災未来センターが実施する「災害対策専門研修」の受講を契機に、もっとも「防災・減災対策」について学び、役立てたいと思うようになりました。

そして、23年3月11日、東日本大震災が発生しました。一瞬にして奪われていく生命と生活、私の娘と同じくらいの幼子が余震におびえて泣く姿を目にした時、「自分のなすべきこと」がはっきりしました。災害から家族を守り、周囲の人を守り、多くの人を守る、防災・減災の分野を目指していこうと、決意を新たにしました。

長野県には、県をほぼ南北に縦断する「糸魚川―静岡構造線断層帯」のほか、複数の活断層があるため、地震災害への備えは急務です。また、浅間山をはじめとする火山災害や土砂災害への備えも充実していかなければなりません。その他にも、南海トラフの巨大地震や首都直下地震など、超巨大地震災害への対策も必要です。

確かに、自然災害をなくすことはできませんが、被害を軽減することは可能だと信じています。防災・減災対策に携わる我々が行うべきことは、まだまだたくさんあります。これをご覧になっている皆さんとのネットワークが、その第一歩です。24年度の1年間、防災・減災対策について研究を行い、最先端の知見をできる限り多く持ち帰り、子どもたちが安心して暮らせる防災・減災社会の実現のために役立てたいと思っています。

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

## 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約 / TEL 078-262-5050 <http://www.dri.ne.jp/>

**開館時間** 9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)  
 ※7月～9月は9時30分～18時(入館は17時まで)  
 ※金曜、土曜は9時30分～19時(入館は18時まで)

### 入館料金

大人	大学生	高校生	小・中学生
600円(480円)	450円(360円)	300円(240円)	無料

※( )は20人以上の団体料金  
 ※障害者、65歳以上の高齢者は上記の半額

### 休館日

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月31日と1月1日  
 ※ゴールデンウィーク期間中(4月28日から5月5日まで)は無休  
 ※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

### 交通

**鉄道**

- ・阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
- ・JR「灘」駅南口から徒歩12分
- ・阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分

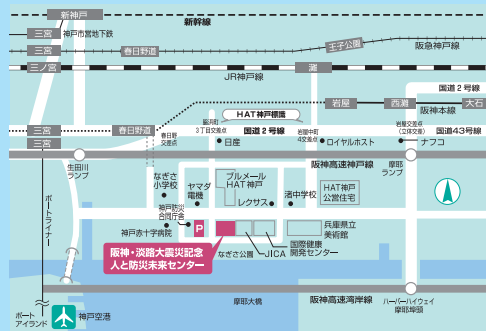
**バス**

- ・三宮駅前から約15分

**車**

- ・阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
- ・阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
- ・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

●有料駐車場あり ●バス待機所(予約制/無料)あり



## 東海・東南海・南海地震対策シンポジウムを開催



パネルディスカッション

3月23日、東日本大震災発生から1年が経過したことを機に、東日本大震災で何が起きたのかをあらためて検証し、東海・東南海・南海地震による被害軽減に向けて何をすべきか再考するため、人と防災未来センターと関西広域連合の共催によりシンポジウムを開催しました。

午前中は、スーパー広域災害である東日本大震災の検証をテーマに、センターの奥村主任研究員、上野主任研究員、紅谷研究主幹、阪本主任研究員、東日本大震災時に宮城県危機対策課長を務めていた菊地宮城県会計課長、関西広域連合の上り口防災計画参事が、それぞれ東日本大震災で得た知見を報告しました。

午後には、東日本大震災を踏まえて、今後の東海・東南海・南海地震対策を再考することをテーマに、河田センター長による基調講演の後、奥村主任研究員をコーディネーターに、原南あわじ市福良まちづくり推進協議会会長、名城ジャパンプラットフォーム国内事業部長、大根愛知県田原市消防本部危機管理監、森部高知県危機管理部長、石田関西広域連合広域企画課長をパネリストにパネルディスカッションが行われ、発生が予想される東海・東南海・南海地震への備えについて議論が交わされました。東日本大震災では避難すれば助かったはずの人も多く、避難啓発が課題であり、若者に訓練に参加してもらうための取り組みや、「想定外」を生み出さないための、従来よりハードルの高い防災計画の策定などが報告され、約150人の聴衆は熱心に耳を傾けていました。

シンポジウム終了後には平成20年7月の都賀川のゲリラ豪雨水難事故の現場視察も実施され、大勢のシンポジウム出席者が参加しました。

## センターが開設10周年を迎えました

4月27日、人と防災未来センターは開設10周年を迎えました。

この日からゴールデンウィークの間は、先着200人の来観者に記念品として緊急用のホイッスルが配られ、来観者は思いがけないプレゼントにとっても喜んだ様子でした。

センターでは今年度は10周年ということで、他にも記念イベントを計画しています。

そして、次の10年に向けて、さらに防災・減災に役立つ施設として頑張っていきます。



10周年記念品



**Hem21NEWS**  
vol.33

平成24年5月発行

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構  
〒651-0073  
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)  
<http://www.hemri21.jp/>

当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部門  
TEL 078-262-5580  
FAX 078-262-5587

●研究調査本部  
TEL 078-262-5570  
FAX 078-262-5593

●人と防災未来センター  
TEL 078-262-5050  
FAX 078-262-5055

●学術交流センター  
TEL 078-262-5713  
FAX 078-262-5122

●こころのケアセンター  
〒651-0073  
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2  
TEL 078-200-3010  
FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・ご感想を機構までお寄せください